

iシェアーズ 月次ETF*資金流入レポート



渡邊 雅史
ブラックロック・ジャパン株式会社
iシェアーズ事業部
ストラテジスト

ETFは世界中で約5000本が上場され、機関投資家・個人投資家の双方に活用されており、その規模は2.5兆ドル（約250兆円）を超えています。

ETFは株式市場で株式のように取引される一方で、上場「投資信託」であり、投資信託としての資金の出入りが日々発生**しています。世界中で様々な投資家が利用しているETFの資金流入は、世界の投資家の動向を探る上でも有用な情報になると考えられます。

当レポートでは、世界のETFの資金流入の状況をまとめ、それらから見てくる世界の投資家動向についてご紹介していきます。

*ETF(Exchange Traded Fund)のほか、ETN(Exchange Traded Note)、ETC(Exchange Traded Commodity)、ETI(Exchange Traded Instrument)等の上場金融商品を含みます。

**ETF独自の「設定／交換」と呼ばれる現物バスケットと受益権の受け渡しによりETFへの資金流入が発生します。（すべてのETFが現物での設定／交換を行うわけではありません）

2014年8月のETF資金流入 ～新興国株式への流入は継続～

2014年8月の世界のETFへの資金流入は、233億ドル（約2.4兆円）の流入となりました。

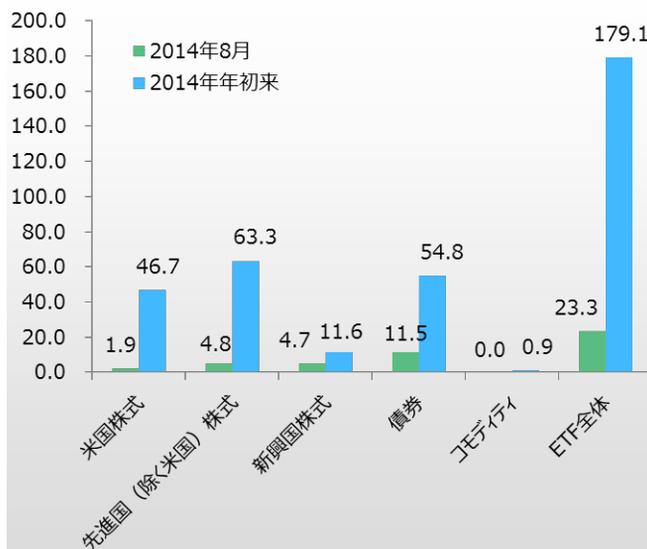
8月のETFへの資金は最終的には先進国株式・新興国株式・債券ともに流入となったものの、米国株式への流入はわずかで、どちらかという米国債のETFへの流入が目立ちました。

月初に米国株のETFから大きく流出したことが尾を引いた結果、米国株への資金フローはわずかでした。また、欧州の景気回復や企業業績に対する懸念やECBの政策に対する不透明感から欧州ETFからの資金は流出しました。

一方で、新興国株式に対する資金流入は継続しており、8月も47億ドルの流入となりました。新興国全体に投資するようなETFにも資金が流れ込んでいますが、国別のETFで見るとは中国株のETFへの資金流入が目立ちました。

また、債券のETFに関しては米国債に連動するものが流入の主軸でした。7月に流出が目立ったハイイールド関連のETFについては、資金流入に転じたファンドなども存在した結果、資金流入はほぼフラットの状態になりました。

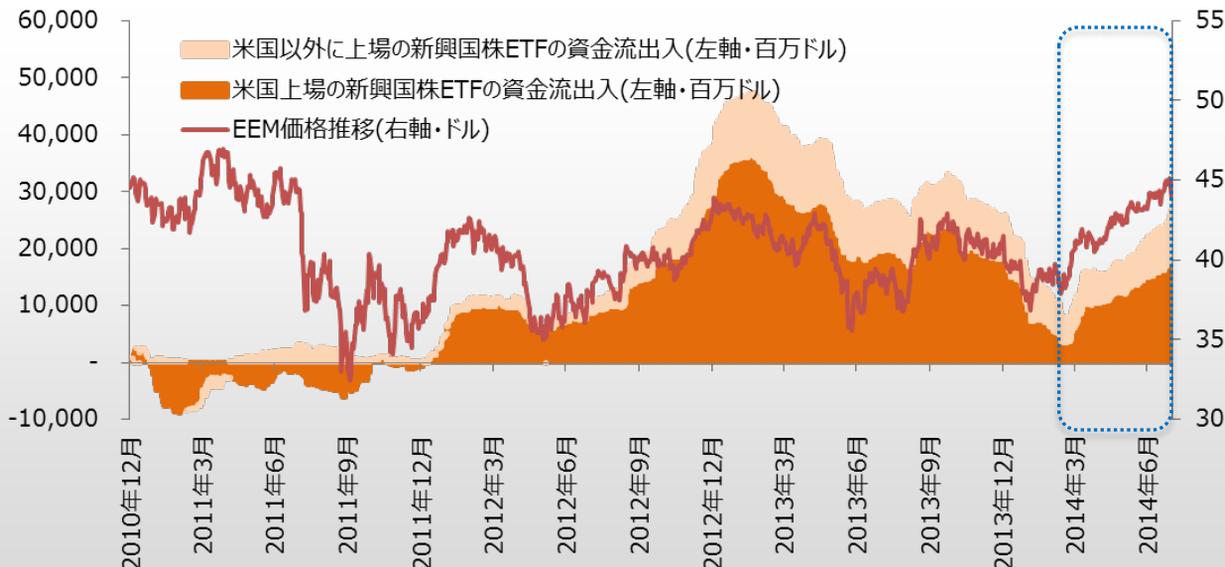
【世界のETFの資金流入（十億ドル）】



出所：ETP Landscape Aug 2014, BlackRock

ETFから見る世界の投資家動向 ～継続的な流入に転じた新興国株ETF～

【EEM(iシェアーズ MSCIエマージング・マーケットETF) の市場価格と新興国株ETFの資金流入】



*グローバルの各国市場に上場しているiSharesに加え、1bil USD以上の残高（2013年12月末時点）がある他社のETP（レバレッジ・インバース型を除く）のうち、データの取得が可能なものをユニバースとして分析。 出所：ブラックロック、ブルームバーグ

2013年初から新興国株ETFからは資金が流出し続け、ようやく今年の3月に流入に転じました。その後の動向に注目が集まっていますが、堅調に資金が流入しています。米国の金融緩和の縮小懸念は常に存在していますし、ウクライナやイラク等の政治リスクも完全に解消しているわけではありません。一方で、過去の資金流入の動向を見ますと、米国⇒日本⇒欧州という順序で資金は流入してきており、足元で欧州への資金フローがおさまってきたところから、新興国への資金流入が目立ち始めました。新興国に幅広く投資するETFへ継続的に資金が流入しているのが主ですが、個別の国では中国が注目を集めている模様です。以前から割安感が注目されていた中国株ですが、一方で景気への懸念等から投資家も手が出しにくい状況でした。しかし、昨今は先進国の株式市場が資金流入により割高感がでてきたことなどを背景に、投資家は中国を中心とした新興国へ資金を動かしているものと考えられます。

ETFの主な投資リスクについて

ETFは投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。連動を目標とする指数、組入れ有価証券の価格変動、金利及び外国為替の変動等の要因によりETFの価格は変動することから、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

ETFの価格が変動する要因や変動の大きさは、各商品及び各商品が連動を目標とする指数等により異なります。優先株は金利上昇等により価値が減少する場合があります。また配当の支払いは保証されていません。満期到来、償還、繰上げ償還、転換などによってファンドの利回りの低下を招く場合があります。特定の地域や分野に特化した投資では、一般に変動が大きくなります。不動産投資信託（REIT）への投資は経済状況の変化や信用リスク、金利変動の影響を受けます。

手数料、費用等について

【売買時の手数料】 当ETFを売買する際の手数料は取扱い金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。【保有時の費用】 当ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただけます。保有時の費用の率（総経費率）は個別のETF/JDR毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱い金融商品取引業者（証券会社）にてご確認ください。またiシェアーズのウェブサイト（<http://jp.ishares.com/>）にて当ETFに関する情報を開示しております。

ブラックロック・ジャパン株式会社